

よしたけはたさやじんじゃ しゃそうりん  
吉竹幡生神社の社叢林

種 別	小松市指定文化財 天然記念物
指定年月日	平成 25 年 11 月 3 日
所 在 地	吉竹町

吉竹幡生神社の社叢林<sup>(1)</sup>は標高 20mの平野部にあり、面積は約 15,000 m<sup>2</sup>ある。スタジイ<sup>(2)</sup>を主体とした原植生<sup>(3)</sup>が保たれており、小松市内では面積・本数とも最大級のスタジイ群落<sup>こうぼく</sup>が形成されている。原植生を構成する他の高木として、タブ、アカシデの大木が混生しているほか、亜高木層<sup>あ こうぼくそう</sup>にはモチノキが多く、ソヨゴ、コシアブラ、ツバキ、ネジキ、ヒサカキなどが生育していて、多様な原植生を形成している。

また、スタジイの古木に依存するベーツヒラタカミキリの県内最大の生息地でもある。この昆虫は石川県を北限とする南方系の種で、県内の生息地が 10 カ所程度に限られるため『いしかわレッドデータブック』の絶滅危惧 I 類<sup>(4)</sup>に指定されている。体長は 30 mm前後で、体は平たく赤褐色をしている。幼虫はスタジイの枯死部<sup>こしぶ</sup>で生育し、夜間に活動する成虫はスタジイの枯死部に昼間潜<sup>ひそ</sup>んでいる。

平野部の原植生であるスタジイ林は県内では数多いが、当社叢林のスタジイ群落は小松市最大級で、幹周り<sup>みきまわ</sup> 2m以上の巨木の占める割合が高いのが特徴である。また、スタジイ古木に依存するベーツヒラタカミキリの県内最大の生息地でもあり、石川県を北限とする本種の分布上からも貴重な社叢林といえる。

- (1) 社叢林：神社の森林。「社叢」「鎮守の森」とも言われる。
- (2) スタジイ：ブナ科の常緑高木で高さ 20mに達する。中部地方以南に生育し、北陸においては平野部から山麓部に発達していた原植生の代表樹種である。
- (3) 原植生：人為的な影響を受けていない植物の群落。
- (4) 『いしかわレッドデータブック』の絶滅危惧 I 類：『いしかわレッドデータブック』は、絶滅のおそれのある野生生物をリストアップし、その現状をとりまとめた石川県版の資料集。平成 11 年度に初版発行、平成 21 年度に改定版が発行された。そのなかで「絶滅の危機に瀕している種」を「絶滅危惧 I 類」としている。



↑吉竹幡生神社の  
社叢林（遠景）

スタジイの大木 ↑

← 社叢林内

ベーツヒラタカミキリ →